

第1回 第五期武蔵野市コミュニティ評価委員会

日時 令和6年5月28日（火）午後7時～午後9時15分
場所 武蔵野市役所412会議室
出席者 渡邊委員、小山委員、町田委員、高橋委員、青木委員、木村委員、毛利委員（名簿順、敬称略）
事務局（馬場市民活動推進課長 ほか3名）
欠席者 なし
傍聴者 なし

■ 次第

1 開会

- (1) 委嘱状交付
- (2) 委員自己紹介
- (3) 事務局紹介
- (4) 正副委員長選出

2 議事

- (1) 評価委員会の運営について ※資料2
- (2) 武蔵野市のコミュニティづくりの取組みについて ※資料3・4
- (3) 評価の目的及び進め方等について ※資料5・6
- (4) これまでの評価委員会の報告等について ※資料7・8・9
- (5) 無作為抽出アンケートについて ※資料10・11
- (6) 利用者アンケートについて ※資料12

3 その他

4 閉会

■ 配布資料

- 資料1 第五期武蔵野市コミュニティ評価委員会委員名簿
資料2 第五期武蔵野市コミュニティ評価委員会運営要領（案）
資料3 武蔵野市コミュニティ条例及び同条例施行規則
資料4 武蔵野市のコミュニティ構想
資料5 評価の目的・方針・視点
資料6 評価の進め方及びスケジュール
資料7 第四期武蔵野市コミュニティ評価委員会報告書
資料8 第四期武蔵野市コミュニティ評価委員会報告書総評への取組み
資料9 令和5年度コミュニティ協議会自己点検・評価表
資料10 武蔵野市「地域コミュニティについての市民アンケート調査」報告書
資料11 無作為抽出アンケート（案）
資料12 利用者アンケート（案）

（参考資料）

コミセン利用状況、第一期～三期評価委員会報告書、運営委員数、むさしのセッション開催経過、地域フォーラム開催経過、使用の決まり一覧、広報紙発行実績、各協議会の主催・共催事業一覧

1 開会

【事務局】

第1回第五期武蔵野市コミュニティ評価委員会を開会します。悪天候の中お集まりくださりありがとうございます。この度はご多忙のなか、委員の引き受けおよびご応募をありがとうございます。

委員長が決まるまで、進行を務めます。よろしくお願いいたします。

(1) 委嘱状交付

略

(2) 委員自己紹介

略

(3) 事務局紹介

略

(4) 正副委員長選出

渡邊委員が委員長に推薦され、委員全員の賛同を得て委員長に決定した。委員長から町田委員に副委員長の依頼があり、町田委員が受諾し、委員会で了承された。

2 議事

(1) 評価委員会の運営について

【委員長】

では、2の議事に入ります。はじめに(1)評価委員会の運営についてです。事務局よりご説明をよろしくお願いいたします。

【事務局】資料2「第五期武蔵野市コミュニティ評価委員会運営要領(案)により説明

【委員長】

なにか質問はありますか。

【C委員】

傍聴人は武蔵野市民に限りますか。他の市民も傍聴可能なのでしょうか。

【事務局】

どなたでも傍聴できると考えています。

【E委員】

傍聴もオンラインで可能でしょうか。

【事務局】

その点は内部でも議論しましたが、事務局の体制上難しさがあり、傍聴の方には会場へお越しいただきたいと考えています。

【委員長】

では、もし体制を整えばオンラインでの傍聴についても本委員会で行っていただければと思います。

(2) 武蔵野市のコミュニティづくりの取組みについて

【委員長】

では、事務局よりご説明をお願いします。

【事務局】資料4-2「武蔵野市のコミュニティ施策」により説明

【委員長】

武蔵野市のコミュニティの特徴について質問や意見等あればお願いします。

【C委員】

コミュニティ協議会への参加者が固定しているという話について、発足した当時は市民活動が活発で担い手が多かったということでしょうか。高齢化していくなかで、次の担い手の募集はどのように行っているのでしょうか。

【事務局】

コミセンが始まった当時は、様々なサークル活動や会議など、市民の活動のために集まれる場所がほとんどなかった状況でした。地域に集まれる場所が必要だとして「コミセンをつくろう」という呼びかけに答え、地域の有志の方々が集まってコミュニティ協議会を発足させました。地域にとって有意義なコミセンをつくろうという思いに燃えていたみなさんが、コミセンの建設から、建設後の運営まで関わってきたと思います。

ただ、その後数十年が経つなかで、発足当時の方々の次の世代への代替わりが難しい状況も生まれました。当初は、自分たちの施設を自分たちの手で作り、愛着を持って運営をしていくという思いが強かったのですが、10年20年と経つうちに運営側と利用者側とで立場が別れてしまい、サービスを受ける側に留まる利用者が多くなってしまったということだと思います。利用者を運営側へとどのように誘っていけるかが課題の1つで、その課題が今に続いている状況です。ただこれは各コミュニティ協議会によって事情はさまざまなので、個別に見ていく必要はあると思います。

運営委員の募集については、基本的には市が発行する市報と、各コミュニティ協議会の広報紙で募集していることが多いです。およそ3月頃に広報し、4月の住民総会で手を挙げた方々が新たに協議会に加わる形です。年間を通して随時募集している協議会も複数ありますので、そうしたところは各協議会の広報紙やホームページで募集を重ねている状況です。

【副委員長】

コミセンづくりに邁進してきた方の心には、自分たちの活動の場が欲しいということが当然あったと思います。コミュニティ協議会は16の地域ごとに特色があり、成り立ちも商店街が中心であったり、PTAが中心であったりと違っている。中には第一世代の方が今も頑張っている協議会もあり、これはすごいことです。ほぼ半世紀に渡りコミュニティに尽力されていることはとてもありがたいのですが、どこの協議会もなかなか後継者ができない課題がある。

一番の問題は、施設ができてものごとが順調に回り始めると、施設を運営する側と利用する側の色分けがかなりはっきりしてしまってきたこと。施設の維持運営に汲々として、満足してしまうこともあります。地域の町内会や福祉の会に余力があるところは、文化祭などにも地域の他団体と一緒に取り組むので、そうした団体から新しい人が入ってきたりする一方、地域の団体の余力がないところは、コミュニティ協議会が単独で事業を実施するようになり、内向きの事業が増えてきてしまう。

また窓口担当は運営委員が担うこととしており、結果として、日常的に施設をまわしている人たちが、運営委員会の3分の1ほどを占め、日常の管理のことを考えると、どうしても新たな事に対する冒険心がなくなってしまう面があると思います。外に訴えかける機会が減ると、コミセンに魅力を感じる人もその分少なくなってしまうという循環になっていると思います。

評価においては、やってきたことを存分に評価して、自信をもって前に出していくようにしないと、コミュニティづくりに携わる人ではなく、コミセンの管理人が増えていくだけになりかねません。

私が初めてコミセンに行った時も「子どもはうるさいから連れて帰って」と言われたことがありました。後々、そのことを当時の人に話したら「ここは滑るから、走ると転んでけがしてしまって危ないから」ということで納得できた。話せば分かることもなかなか話す機会がないから、コミセンに関わる人が減ってきてしまうということがあります。

【委員長】

ありがとうございます。他に意見ありますか。

【E委員】

今のお話を伺いながら、自分が福祉の配食ボランティアの担当をしていた時のことを思い出しました。配食ボランティアは武蔵野市では昭和48年ぐらいから始まっていて、自分の親の世代の女性が「5歳の息子の手を引いて、お弁当配りを始めた」と話をされていて、当時は専業主婦が多かったのかなと思いました。そういう意味では、働きながらでもコミセンにどうやって関わっていったらいいかということは、ボランティアについて考える時に必要になる視点だと思いました。

【委員長】

ありがとうございます。今のお話は非常に重要で、働きながらコミュニティに関わるといことは高齢者も同じだと思います。定年が延び、退職する年齢が遅くなる時代のなかで、どのような担い手に関わってもらうのか、あるいは働きながら関わってもらう方法について考えることが重要だと思います。

【D委員】

これまでの議論をきいていて、テーマが大きかった時代から、テーマが細分化される時代になっていると感じました。仕事を持つ方の参加が進むためにも、もっと共有できるテーマを取り扱えるコミセンになるべきだと思います。

【委員長】

こちらも重要な指摘だと思います。自治会がある自治体であれば、自治会があらゆる分野を受けもっているところもありますが、武蔵野市の場合、全ての地域に自治会等があるわけではありません。そのため、防災や福祉の分野など、地域ごとの住民組織が必要な分野については、コミュニティ協議会とは別に団体をつくってきた経緯があります。そうするとコミュニティ協議会が対応するものは、次第に専門的な分野ではなくなっていく、コミセンの運営の部分にのみ汲々としていきます。そして、コミセンの運営以外の社会課題の解決にまでなかなか活動が及ばないということもあったのだと思います。

なおかつ武蔵野市には自主三原則があるので、市からの呼びかけでコミュニティ協議会になにかをやってもらうというよりは、地域の方で考えてやってもらう形になります。構図としては美しいのですが、それがうまく回るところと回らないところの両方がでてきているのが現状なのだと思います。武蔵野市は良くも悪くも非常に高い理想を掲げていて、自分たちで考えましようという点がハードルにもなり、いいところと悪いところがでてきているのだと思います。いいところは尊重すべきですし、悪いところは皆さんと共有して対応できればと思っています。

【副委員長】

仰るとおりで、地域には様々な団体があります。コミュニティ協議会は、防災や福祉などの団体が横のつながりをもって動いていけるよう、そのハブになるはずですが、コミュニティ協議会そのものが何かをするよりも、コミュニティ協議会に集ういろんな団体が情報交換しながら、一定のエリアの市民に対する安心とサービスを提供するのだと思います。言うのは美しいですが、決定的なのはマンパワーが足りなくなっていること。福祉の会、防災会、コミュニ

ティ協議会、それぞれをみんな同じ人が担っています。そうすると各々に独自性が出てこない。

防災の関連では、もう一度役割を整理しなければならないと思っています。そこで今、コミュニティ協議会と地域の防災団体で考え始めています。それぞれの団体が絵に描いた餅を持っていても、いざという時に同じ人間ばかりで何もできないということがないよう、整理しようという段階。コミュニティ協議会のハブとしての機能をどのように考えなおすかだと思います。

【委員長】

ありがとうございます。そのほか皆さまからなにかございますでしょうか。なかなか武蔵野市のコミュニティ施策は歴史的経緯を含め独特ですが、コミュニティ評価委員会のなかでも勉強していければと思います。

(3) 評価の目的及び進め方等について

【委員長】

事務局より説明をお願いします。

【事務局】 資料5「評価の目的・方針・視点」と資料6「評価の進め方及びスケジュール」により説明

【委員長】

今の説明について、意見や質問はありますか。

【B委員】

運営の工夫に関して、コミセンの現状について話したいと思います。コロナ禍にはコミセンを閉館しなければならない状況に追い込まれました。その後、市からの声を受けてコミセンを開く準備をしましたが、スタッフが高齢者も多いなかで「なぜこのような状況のなか開館しなければならないのか」という声も上がりました。なんとか開館しましたが、開館後もアクリル板や消毒液、体温計などの環境を整えるほか、利用の決まりについてもたくさん話し合いました。利用終了後の消毒は利用者が行うべきなのか、コミュニティ協議会が行うべきなのか、1部屋の定員の考え方、楽器やスポーツの利用などについてです。様々な制約があるなかで、どうすればお祭りが開催できるかなど、当時は本当に頭を悩ませました。

例年、同じようなイベントや事業を行ってきたなかで、コロナ禍で途絶えることにより、スタッフが動けなくなってしまうことがあると思います。コロナ禍に開館することの大変さを乗り越えたことで、結束力ができたと思う一方で、新たなことにチャレンジする大きな一歩を踏み出せなくなってしまうようにも思います。今までと同じようにやりたいという気持ちがあっても、今

まではどのようにやっていたのだろうと悩んでしまうことも多くて、みんな一歩引いたところも感じます。

西部コミセンではこれからお祭りを控えています、そうした雰囲気突き抜けていく、元気な若い人のエネルギーがほしいとしみじみ思っています。やりたい想いはあるけれど、アイデアがないのが、寂しい現状です。

【委員長】

今お話のあった運営の工夫あるいは過去の努力については、今回コロナ後初めてのコミュニティ評価委員会ですので、苦労話を含めて、良かったこと大変だったことをぜひ聞き取っていただければと思います。

【C委員】

今回のアンケート調査で、コミセンに対してこうした活動をしてほしいという前向きな希望が出てきた場合、それを実現できるものなののでしょうか。先ほど副委員長より、マンパワーがないといった現実的なお話がありましたが、本委員会としてコミュニティ協議会に対して、どこまで踏み込んでいいのか、また本委員会は評価まで行えばいいのか、それともコミセンはこうあるべきだという提言まで出すのか、その辺りを本委員会に参加するにあたっての姿勢として教えてください。

【事務局】

本委員会の基本的なスタンスは、アンケートやコミセンとの意見交換等を通じて、各協議会が抱えている課題があれば、それに対して一緒に考えながら助言をする、16協議会全体をみて本委員会で気が付いた指摘があれば伝えていくものと考えています。コミュニティ協議会の自主性・主体性を尊重し高めていくことが基本になるので、何か新たな活動を求めていくような場合には少し慎重に考える必要があると思います。

【C委員】

評価として、このような意見がありましたというところまでで十分ということでしょうか。その後どうした方がいいというところまでは提案しなくていいということでしょうか。

【事務局】

これまでの評価委員会でも提案はしており、今回も提案はあり得ます。ただ、一方的な提案というよりは、意見交換会やコミュニティ協議会の自己評価を踏まえて、一緒に考えていくことが大切になると思います。どこまで踏み込んで提案するかも内容に応じて議論が必要でしょう。

【C委員】

最終的なアウトプットとして何を指すのかを知りたいです。

【事務局】

参考として、第四期のコミュニティ評価委員会の報告書に記載の総括的な総評をご覧くださいと思います。第四期にはいくつかの共通課題を掲げ、助言や、16協議会のなかで参考にしてもらいたい取組みを取り挙げました。こうしたまとめ方がアウトプット1つのイメージになると考えています。

【副委員長】

悩まれるでしょう。これが武蔵野なのだと思います。あくまでも市民自身が考えて、自分たちで評価をして自分たちで課題を見つけるという、とても過酷なことが要求されるのです。でも、それを半世紀も続けてこられていることに重きを置かなくてはならないとも考えています。やってきたことには自信をもっていいと思っているし、足りないものについては確認をして進めていく。

決定的なのは16の地域が全て異なることです。そこに自主三原則に基づいて、地域性は考慮されるし、上意下達の組織ではないので、市から「これをやって」と要望があっても拒否することができます。委員会で方向性を示したところで「うちの協議会ではできない」ということはあるということです。

そういう状況に最も直面したのはコロナの時でした。それまでは16コミセン共通で枠をかけて何かをすることはありませんでした。でも2020年の3月から4か月間、全てのコミセンを閉めることになりました。地域にも影響があり、福祉の会など、コミセンをたまり場として活動している団体の活動場所がなくなりました。また自己実現のためにコミセンを利用していた人も活動場所がなくなりました。そしていざ開館する時も大変でした。なぜこのような時に開館しなければならないのか、夜はもっと早くに閉めて良いのではないのか、消毒はどうするのか、などコミュニティ研究連絡会でも一つひとつ議論をしながら進めてきました。16協議会の意見をどこに落ち着かせるかという話し合いでした。ある意味では遅々として進まない作業ではあるけれど、そうしてお互いの地域性を確保してきたのだと思います。西側のコミセンだと、団地が多いなどで子どもも多く、青少協やPTAの協力者もいたけれど、東側は高齢者が多いなどの地域性もある。そうした特徴を持ちながら進めてきているので、コミュニティ評価委員会で各コミセンに一律に「こうしてください」と言うことはできない難しさがあります。

【委員長】

私たちがコミュニティ協議会に対してできることは「提案」だと思います。そして、本委員会ではあくまで市長に報告書を答申しますので、それは市への要求です。各コミュニティ協議会への提案は積極的に行ってよいと思うのですが、その場合には、なぜこのようにした方がいいのかの説明責任は本委員会にあると思います。

そのほか、みなさまからなにかございますでしょうか。ないようでしたら、次の議事に進みたいと思います。

(4) これまでの評価委員会の報告等について

【委員長】

では事務局よりお願いいたします。

【事務局】資料7「第四期武蔵野市コミュニティ評価委員会報告書」、資料8「第四期武蔵野市コミュニティ評価委員会報告書総評への取組み」、資料9「令和5年度コミュニティ協議会自己点検・評価表」により説明

【委員長】

「コミュニティ未来塾むさしの」の受講生は、「武蔵野市第六期長期計画」策定のワークショップのファシリテーターとして運営に関わっていただき、学びの場で養われた能力は市政運営にもいかされています。

皆さまより、ご質問やコメントなどございますでしょうか。

【A委員】

先ほどC委員の最終的な目的についての話は、とても考えさせられました。資料9「令和5年度コミュニティ協議会自己点検・評価表」を踏まえてみても、地域によってコミセンの特色が異なるということが分かりました。そうしたコミセンの最大公約数を捉えて答申を出そうとすると、表面的な内容になってしまうように思えて難しいと思いました。

また、B委員が仰ったコロナ禍で大変だったことのお話を受けて、大規模改修のあるコミセンでは活動が止まってしまうと思うので、活動が一度とまった時にどのようにしてこれまでの活動を持続させながら新たに始めることの難しさがあるのだと感じました。またそこに抱える課題もコミセンごとに変ってくるのだらうと思いました。

【委員長】

最大公約数を考えると内容が薄くなるというのは、全くそのとおりだと思います。ただ、個別にコミセンの名前を書くのも難しい部分があり、この点については答申をつくる過程で様々なご意見をいただきたいと思います。

【副委員長】

コロナ禍を過ぎて一番変わった点は、地域でのネットワークをつくりながら続けてきた事業がコロナ禍の3年間によって途切れたことで、そこに関わっていた人が散逸してしまい、コロナ禍が明けていざ始めようとしても、今までやったことのない人ばかりで、事業をやろうにも逡巡してしまっていることだ。コロナの期間は、コミセンが閉まっていたり、利用に制限があったりで、市民は活動場所に飢えていたと思います。コミセンが今までどおり使え

るようになった時、個人利用者は圧倒的に増えました。コミセンの運営は、コロナ禍前と異なる利用者が増えたことで、新しいルールをつくって対応するほかなくなった。そうした運営に追われるものの、本来コミュニティ協議会がもっている地域の方との関わりのある事業は、経験者がいないことと、忙しさよってなかなかできない。これが現状だと思います。

市民にとっては、無料で使える施設が家から歩いていけるところにあることを知ったら、コミセンを使うようになるし、武蔵野市のコミュニティは素晴らしいと思うけれど、現状はこのような状態です。これをどのように乗り越えるかだと思います。

【委員長】

様々な課題が出てきました。運営はなかなか大変だと思うのですが、誰も来ないコミセンより、個人利用でも使ってもらえるコミセンの方が良いので、この現状を前向きにいかすことを考えていけたらと思います。

そのほか、皆さまから意見などありますか。なければ、次の議事に進みます。

(5) 無作為抽出アンケートについて

【委員長】

事務局よりご説明をお願いいたします。

【事務局】 資料 10「武蔵野市『地域コミュニティについての市民アンケート調査』報告書」、資料 11「無作為抽出アンケート（案）」により説明

【委員長】

市民全体に対して、地域コミュニティとの関わりやコミセンの利用について問うものとのこと。前回調査との経年変化をみるため、内容の大きな変更はできませんが、意見や質問などあればお願いします。

【C委員】

アンケート回収率が少ないと感じました。アンケートの分量も多く、真剣に回答すれば時間がかかると思うので、回答者には、市から QUO カードを贈るとか、公共施設を安く使えるとか、何らかのメリット感をもたせられないでしょうか。全体を把握するには、2,500 通のうち最低でも半分くらい回答を集めないと、市民の意見としてみるのは難しいと思います。

【事務局】

前回の調査でも行ったことですが、締切に近づいたところで督促状を送付します。また、繰り返しになりますが、今回の調査は Web 回答可能したことが回収率向上の工夫点です。

【副委員長】

市民に「コミュニティ活動」という言葉がすっと落ちるのか気になります。我々には使い慣れた言葉でも、無作為抽出で送付する市民に伝わるか気になりました。

【事務局】

「地域コミュニティ活動」の簡単な説明や定義づけを考えたいと思います。

【E 委員】

いまの話を伺って、コミュニティ活動が個人で行うものなのか、どこかに所属して行うもののかなど、もしかするとコロナ禍を経て変わってきている可能性があると思いました。インターネットや SNS が普及し、より自分の趣味に合った活動できるようになってきているなかで、アンケートへの回答しづらさがあるのではないかと思いました。

また、普段の情報収集の方法の部分は、市の情報に限らないという前提でよろしいでしょうか。

【事務局】

情報収集の設問は、地域の情報やコミセンを含むコミュニティ活動に関する情報収集の方法を問うイメージなので、質問票への追記が必要と感じました。

【委員長】

過去の回答を見る限り、事務局の想定ではない回答が回収されているように思われます。もし市の情報の収集についてと限定するのであればそれでも良いと思いますが、経年変化は見づらくなると思います。

【事務局】

設問の意図としては、市政や地域に関する情報を普段どのように集めているかを知りたいということなので、できれば市政あるいは地域の情報ということにさせていただきたいと思います。

【委員長】

委員の皆さま、ご意見いかがでしょうか。

では私の意見ですが、正直なところ、普段の情報収集の手段はほぼ年齢に比例するので、経年変化を見るのではなく、質問の意図を変えてしまうのも良いのではないかと思います。

私は社会調査が専門なので、回収率については様々思うところがありますが、今から予算をとって謝礼は出せないと思いますし、過去も謝礼は出していないということなので難しいかもしれません。質の良い封筒を使うことなどでも回収率は上がるので、そうしたことに取り組んでほしいと思います。

また 1 人利用などの、コミセン利用の人数については問 21 の選択肢の一つに「予約なしに一人でも過ごせる場所がある」とあるくらいで、あまり設問が

ないので、ページ数の都合で難しいかもしれませんが、もし 1 人利用などの要素を加えられる部分があればご検討いただければと思います。

このほか、皆さまから意見はありますか。この発送はいつ頃でしょうか。

【事務局】

今の意見の反映結果を委員長に確認していただき次第、発送します。来週中には固めたいと思います。

【委員長】

分かりました。もしお気づきの点があれば、一両日中に事務局へ連絡してください。最後の校正や印刷の都合もあるので、あまり大きな変更は難しいのと、全てが反映される訳にはいかないと思いますが、お願いします。

また、アンケート結果の個票の活用も、二次分析ができるよう個票データの何らかの形での公表を検討してほしいです。私も大学の授業用教材として使って、学生に考えさせることもできると思いますし、無料の統計ソフトも多いので、市民の方にも考えてもらうきっかけになるとと思います。

(6) 利用者アンケートについて

【委員長】

事務局より説明をお願いします。

【事務局】 資料 12「利用者アンケート（案）により説明

【委員長】

ご意見等ありますか。

【D 委員】

回答方法は、コミセン利用者にその場で書いてもらいコミセンに提出する方法と、QR コードで回答する方法があるということでしょうか。QR コードの場合、どのコミセンの利用者の回答か分かるのでしょうか。

【事務局】

調査結果は、どこのコミセンの利用者かを特に区別しない予定です。

【D 委員】

どこのコミセンへの回答か分からなくなってしまうと、コミセンごとに特色があるなかで、特色に対して回答される調査結果が、コミセンへ反映しづらくなってしまわないのでしょうか。

【事務局】

仰るとおりなので、公表するかは別として、コミセンごとの結果が分かるように、QR コード回答の場合には、紙の設問とは別にコミセン名を選択できるような設問を追加するよう考えたいと思います。

【委員長】

おそらく、コミセン名を出して公表してしまうとコミセン評価アンケートのようになってしまうことが考えられるので、公表するのは全体版の方が良いと思います。ただ、内部用にはコミセンごとの調査結果をもっておくが良いと思います。情報として保持していることはコミュニティ研究連絡会の方々にも伝え、ご意見をききながら、もし要望があれば、部分的にでも情報を提供するという形でも良いと思います。

【副委員長】

内部資料としてコミセンごとの調査結果もつくるべきだと思います。

もう1点、コミセン利用のグループサイズについての設問を加えられないでしょうか。ここ最近、明らかにグループサイズが小さくなっている。1回の利用における人数のデータがとれると良いと思います。各コミセンで順次、大規模改修などしていますが、今のコミセンにある40人規模の会議室は大きすぎます。40人の会議室1部屋より、20人の会議室が2部屋ある方が使いやすい。今後の改修を見据えても、最もコアな利用人数が分かると良いと思います。

【事務局】

調査票のスペースの都合もありますが、検討します。

【A委員】

前回の調査結果では、コミセンごとの回答数が違っていたように思いますが、前回どのように回収をしていましたか。声かけして答えてもらっているコミセンと置いているだけのコミセンの違いなのか、コミセンの利用者数による違いなのか、そのあたり分かることがあれば教えていただければと思います。

【事務局】

コミセンから利用者へのアンケートの声かけは統一できていなかったと思うので、今回は何らかの方法で統一した声かけをお願いしていきたいです。

【A委員】

全部を一緒にしてしまうことを踏まえると、コミセンごとの数が異なる点は少し気になると思いました。

【委員長】

館ごとの違いは把握できるようにした方が良いでしょうし、利用人数のサイズには、1人利用以外についても問うのであれば、新たな設問が必要でスペースの都合もありますが、大事なことであり、選択肢も細かくする必要はないので、一行だけでも検討していただきたい。もし入れられる場合は、場合によって利用人数も異なると思うので、複数回答可にした方が良いでしょう。

【C委員】

この利用者アンケートは、利用者が利用するたびにとるイメージですか。ヘビーユーザーの場合、毎回回答するとその方の意見に偏ってしまうので、何回目の回答なのか答えてもらうなど、何か工夫が必要と思いました。

【事務局】

どんな工夫ができるか考えたいと思います。

【委員長】

違うコミセンを利用の場合は2回回答しても問題ないと思いますが、同じコミセンには回答は1回だけにしてくださいといった文言を一行入れられたら良いと思います。ネット上での回答は仕方ないので諦めるしかありません。そのほかご意見等ないようでしたら最後の議事を終了したいと思います。

3 その他

【事務局】 次回委員会日程と視察日程について連絡

【委員長】

次回のコミセン視察では、実際にコミセンを見ていただくとコミセンの多様さも分かっていただけるとと思いますので、ご協力をいただければと思います。

4 閉会

【委員長】

ではこれで第1回第五期コミュニティ評価委員会を終了します。皆さま、ありがとうございました。